



新生エレクトロニクス実装学会を めざして

須賀 唯知*

会長を拝命して1年が過ぎました。過去続いてきた会員減が底を打つ兆しは見えてきたものの、実装を巡る産業界の動向には未だ目を離せず、学会の行く末を薔薇色と胸をはっている状況にはありません。しかし、このようななかで、これまでの軌跡を継承しつつも、さらに新たな学会の方向を明示するための新たな試みが始まっています。

ひとつは、若手を中心とした自律的な活動を支援するためのミッションフェロー制度です。個々の技術分野にとらわれず、将来の実装関連技術のビジョンや融合技術分野への展開の議論、国際連携の推進、大会やフォーラムでの若手セッション企画などにより、学会活動に積極的に関与していただくという趣旨で、初年度、学会の各セクションから推薦された17名が、すでに第1期生としてさまざまな提案を発信し始めています。

もうひとつは、本年度発足する「カーエレクトロニクス」「パワーエレクトロニクス」「ヘルスケア」の3研究会です。技術や工学分野で区分されている研究会とは別に「何を作るか」を指向した研究会です。同じ表題の研究会はどの学会にあってもおかしくありませんが、「どのように」実装するかという問題解決の手法から「何を」実装するかという課題設定に視点をおく、実装の本来のあるべき姿がまさに反映される対象であり、これらが実装技術なしでは実現しえないシステムの実体化・集積化の成果であることを考えれば、本学会がまちがいになく中心として活動すべき、また活動しうる分野です。

先日、関連省庁の若手が、「実装」というと、自分たちの世代だとアルゴリズムやフィーチャの実装・ソフトの実装 implementation といった使い方のほうがピンとくる、という話をされているのを耳にしました。「実装」がほとんどのひとに知られていない言葉であった時代を思い起こすと、隔世の感を禁じ得ませんでした。同時に、もの作りに日本の強みである実装を生かしつづけるために、ものづくりの本質を的確に表す「実装」という言葉をさらに大切に議論していきたい、と改めて思った次第です。

上記のミッションフェローは、今後、2期生、3期生と数を増やし、若い仲間を増やしていく予定です。新規会員も含め、ぜひ周辺の元気な方にお声掛けいただき、ご推薦いただければ幸いです。また、上記の新しい研究会も、多くの会員のかたに直接関係していただけるよう広く門戸を開き、活動を始める予定です。関係の皆様のご尽力で、国際会議 ICEP やシンポジウム MES の活動も活性化しており、従来の技術委員会や研究会については、改めて会員を募集するなどの改編の計画も進行しています。

今年を新生エレクトロニクス実装学会の元年と振り返っていただけるような年にしたいと不遜にも考えております。どうぞ今年一年よろしく願いいたします。